

平成 12 年度カンボディア王国
三角協力プロジェクト形成調査団
報告書
(フェーズ Ⅰ , フェーズ Ⅱ)

平成 12 年 4 月

国際協力事業団

目 次

1 . 調査概要	1
1 - 1 調査の背景・経緯	1
1 - 2 調査の目的	2
1 - 2 - 1 三角協力プロジェクト形成調査団・フェーズ	2
1 - 2 - 2 三角協力プロジェクト形成調査団・フェーズ	2
1 - 3 団員構成	2
1 - 4 調査の日程	3
1 - 5 調査結果全体概要	4
1 - 5 - 1 C D W財源捻出法	5
1 - 5 - 2 M R D及び地方自治体の機能強化	6
1 - 5 - 3 2004年3月以降の支援形態(案)	6
2 . 各フェーズ協議結果	8
2 - 1 三角協力プロジェクト形成調査団・フェーズ	8
2 - 1 - 1 U N D P「三角協力モニタリング・評価」に関するT O R、 評価内容についての協議	8
2 - 1 - 2 今後のプロジェクトの中期的な協力計画策定のための関係者との協議、 協力計画素案の作成	8
2 - 2 三角協力プロジェクト形成調査団・フェーズ	8
2 - 2 - 1 U N D P「三角協力モニタリング・評価」及び、 フォローアップについてのU N D Pとの協議、 今後の三角協力の計画(4か年計画)についての意見交換	8
2 - 2 - 2 農村開発省(M R D)による人件費・センター移管などの検討状況の説明、 及び来年度計画・4か年計画概要についての協議	9
2 - 2 - 3 A S E A N各国大使館に対するA S E A N専門家投入数の 減少に係る説明、4か年計画概要の説明	9
2 - 2 - 4 プロジェクト関係者及びJ I C A事務所とのA S E A N専門家・ J O C Vの投入、第三国専門家活用なども含めた、来年度の計画の策定、 4年間計画の大枠についての協議	10

付属資料

1. 図 三角協力プロジェクトの人と資金の流れ.....	13
2. プロジェクト関係機関の役割.....	14
3. ASEAN専門家・JOCV隊員投入実績.....	15
4. 年表.....	16
5. 分野別実績総括表.....	17
分野別裨益者数.....	18
6. 現在の三角協力活動.....	19
7. PRM説明.....	20
8. CDW説明.....	21
9. CDW&C/P名簿.....	22
10. CDW&C/P評価表.....	25
11. JICAプログラム研修受講者名簿.....	26
12. 三角協力の間接的効果.....	27
13. UNDP「三角協力モニタリング評価」報告書の提言内容要旨.....	28
14. 三角協力プロジェクト形成調査団.....	29
15. 三角関係協力プロジェクトの自立発展に向けた課題.....	32
16. 2004年4月以降のプロジェクト継続(案).....	35
17. 第三国専門家活用(案).....	36
18. UNDP提出4か年計画案.....	41
19. Transition Plan Stage up to March 2004.....	55

1. 調査概要

1 - 1 調査の背景・経緯

1991年10月にカンボディア王国(以下、カンボディアと記す)の和平に関する協定が調印され、各ドナーはカンボディアの復興・復旧に向け援助を開始した。日本国政府は、1992年7月の「ASEAN拡大外相会議」において当時の柿澤政務次官が日本とASEAN諸国が共同でカンボディアの復興を支援する「三角協力」構想を打ち出した。

その後、数次にわたるプロジェクト形成調査団(1992年9月、1993年2月、1993年4月、1993年9月、1997年6月)を派遣し、和平後のカンボディアの最重要課題は帰還難民、武装解除軍人、国内難民の再定住及び主要産業の育成であったことから、日本国政府はASEAN4か国政府(インドネシア、マレーシア、フィリピン及びタイ)とともに、日本国政府が国連難民高等弁務官事務所(UNHCR: United Nations High Commissioner for Refugees)へ拠出する資金により農業を中心とした地域開発を行うこととなった。

1992年12月から難民再定住・農村開発プロジェクト(RDRP: Rural Development and Resettlement Project in Cambodia / 通称: 三角協力、以下三角協力と記す)の第1フェーズとして「農村基盤整備事業」が開始され、治安状況の悪化から1993年5月以降、協力は一時中断されたものの、治安状況の回復後、1994年4月から第2フェーズとして「農村開発事業確立」が開始された。1997年7月の武力衝突事件により再びプロジェクトに遅延が生じたが、1998年8月より、第2フェーズまでの蓄積を基に、第3フェーズ「総合農村開発普及」が開始されており、これまでに、総合農村開発「IP(Integrated Project)」が約200村で展開され、CDW(Community Development Worker)76名が育成されるなど、着実に成果を上げ現在に至っている。(2000年4月時点)

1994年4月からの第2フェーズからは、プロジェクト活動資金の拠出先もUNHCRから国連開発計画(UNDP: United Nations Development Program)に変更され、三角協力基金としてUNDPへの拠出金が確保されていたが、1998年8月からの第3フェーズは同じUNDPへの拠出金であるものの、人づくり基金の1コンポーネントとなっている。

本プロジェクトについては、国連への拠出金(Japan Fund)の活用、ASEAN専門家の派遣などの事情により、プロジェクト方式技術協力のように特定の年限を区切ることなく、1年ごとに協力を延長するという方式で実施が進められてきており、今後の中期的な協力計画策定を、プロジェクト関係者と協議するため、プロジェクト形成調査団が派遣された。

1 - 2 調査の目的

1 - 2 - 1 三角協力プロジェクト形成調査団・フェーズ

- (1) UNDPの行う「三角協力モニタリング・評価」に関しTOR、評価内容についての協議を行う。
- (2) 今後のプロジェクトの中期的な協力計画策定のために関係者と協議を行い、協力計画素案を作成する。

1 - 2 - 2 三角協力プロジェクト形成調査団・フェーズ

- (1) 12 / 20 ~ 1 / 21 にUNDPが行った「三角協力モニタリング・評価」、及び2 / 21 ~ 2 / 25のフォローアップについてUNDPと協議するとともに、今後の三角協力の計画(4か年計画)につき意見交換を行う。
- (2) 農村開発省(MRD: Ministry of Rural Development)から人件費・センター移管などの検討状況の説明を受けるとともに、来年度計画及び4か年計画概要につき協議する。
- (3) ASEAN各国大使館に、ASEAN専門家投入数の減少に係る説明を行い、ASEAN各国大使館に理解を求めるとともに、4か年計画概要の説明を行う。
- (4) プロジェクト関係者及びJICA事務所と4か年計画(案)を基に、ASEAN専門家・JOCVの投入、第三国専門家活用なども含め、来年度の計画を策定するとともに、4か年計画の大枠の協議を行う。

1 - 3 団員構成

(1) 三角協力プロジェクト形成調査団・フェーズ

担 当	氏 名	所 属
団長 / 総括	平井 敏雄	国際協力事業団地域部準備室インドシナグループ課長
技術協力	二宮 和義	外務省技術経済協力局技術協力課外務事務官
調査計画	野邊 節	国際協力事業団地域部準備室インドシナグループ特別嘱託
企画調整	平山 剛道	(財)日本国際協力センター開発部開発業務課課長代理

(2) 三角協力プロジェクト形成調査団・フェーズ

担 当	氏 名	所 属
団長 / 総括	平井 敏雄	国際協力事業団アジア第一部インドシナ課課長
調査計画	野邊 節	国際協力事業団アジア第一部インドシナ課特別嘱託
企画調整	平山 剛道	(財)日本国際協力センター開発部開発業務課課長代理

1 - 4 調査の日程

(1) 三角協力プロジェクト形成調査団・フェーズ

月日	曜日	移動及び業務			
		平井団長	二宮事務官	平山団員	野邊
12月8日	(水)	10:30 TG641 出発 21:00 VJ038 到着			
12月9日	(木)	9:00 JICA事務所にて事前協議 11:00 UNDP事務所にてモニタリング・評価に係る協議			
		15:00 JICA事務所にて 打合せ	15:00 MRD Ngy Chan pal 次官 との協議	15:00 JICA事務所にて 打合せ	
		16:30 RDRP事務所にて協議			
12月10日	(金)	9:00 日本大使館表敬		9:00 コンサルタントとの 打合せ	
		10:30 JICA事務所にて打合せ		10:30 藤田PMと協議	
		14:00 司法省、メコン委員 会、関係専門家との 協議 17:00 RDRP事務所に て協議	14:00 RDRP事務所にて協議		
12月11日	(土)	7:00 三角協力サイト見学 (平井団長・野邊全日、二宮事務官・平山団員半日)			
		18:00 専門家と協議	17:50 VJ307 出発	18:00 専門家と協議	
12月12日	(日)	10:30 TG697 出発 11:40 バンコク到着		12:00 三島APMと協議 14:30 中野APMと協議	
12月13日	(月)			10:30 M&E コンサルタント との協議 13:30 黒岩APMと協議 15:00 寺本次長、斉藤所員と 協議 18:00 藤田PMと協議	
12月14日	(火)			資料整理・作成 11:00 コンサルタントとの 打合せ 15:00 RDRP事務所 関係者との協議	
12月15日	(水)			資料整理・作成 14:00 三島APMと協議	
12月16日	(木)	6:35 NH916 到着		8:00 コンサルタントとの 打合せ 9:00 藤田PMと協議 資料作成 17:00 JICA事務所にて 松田所長、寺本次長、 斉藤所員との最終協議 19:00 RDRP事務所 関係者との最終協議	
12月17日	(金)			7:00 VJ031 出発 19:00 TG640 到着	

(2) 三角協力プロジェクト形成調査団・フェーズ

月日	曜日	移動及び業務	
3月12日	(日)	10:00	TG641出発
3月13日	(月)	9:35	TG696到着
		11:00	JICA事務所にて事前協議
		12:00	日本大使館表敬
		14:00	RDRP事務所にて協議
3月14日	(火)	8:00	農村開発省との協議
		10:00	フィリピン大使館との協議
		11:00	インドネシア大使館との協議
		14:00	マレーシア大使館との協議
		16:00	タイ大使館との協議
		17:00	JICA事務所との協議
3月15日	(水)	8:00	RDRP事務所にて協議
		11:00	農村開発省との協議
		16:00	UNDPとの協議
3月16日	(木)	8:00	RDRP事務所にて協議
		13:00	USAIDとの協議
3月17日	(金)	10:00	RDRP事務所への報告
		11:00	日本大使館への報告
		11:30	CDCとの協議
		12:30	UNDP本部藤村氏との協議
		14:00	JICA事務所への報告
		17:10	TG699出発
3月18日	(土)	7:00	642BKK到着

1 - 5 調査結果全体概要

平成11年、外務省技術協力課長がUNDP本部(ニューヨーク)のTCDC部長と会談した際、予算を含む今後の見通しの提示について要請があり、外務省、JICEとともに4か年計画(案)を作成した。調査団は本案を基に、農村開発省、UNDPカンボディア事務所、三角協力プロジェクト関係者と協議を行い、今後の計画を立案した。

MRD次官 Mr. Ngy Chanphal と今後の三角協力計画について協議したなかで、MRDがRDRPプロジェクトを模範として独自に実施するMini-RDRPプロジェクトにかかる経費、及びプロジェクトから移管予定のセンター維持費などの予算を、1999年9月に政府へ提出する来年度予算要求で申請することが表明された。

4か年計画の最後の年にあたる2004年3月までに、三角協力の人件費、維持費、活動費などの予算はカンボディア政府(MRD)により負担されることが望ましいものの、国家財政の5割以上と海外援助に依存し、かつ国防費が35%を占めるカンボディアの現状ではこれらの費用を負担していくことは極めて困難であると予想される。

以上のことから、今後も引き続きカンボディア政府(MRD)には予算負担を求めていく一方で、これまで三角協力のIP(Integrated Project)村において行われてきた資機材回転貸付制度

(P R M : Partner Revolving Material)システムを活用し、 C D W(Community Development Worker)の人件費を確保する財源捻出法を実証調査(トライアル)のなかで検証し、今後 4 年間で確立すること、及びプロジェクト活動を主体的に実施するための M R D 及び地方自治体の機能強化を目的に以下の内容で 2004 年までプロジェクトを実施する。

- 1) 現行(U N D P への拠出金)の方式で 2004 年 3 月まで協力を継続する。(付属資料 18・19 参照)
 - ・カンボディア政府、地方自治体によるプロジェクト運営が行われるよう機構改革、強化が行われる。
 - ・ I V M(Integrated Village Management)活動実施農村において活動が実践され、また維持される。
 - ・ M R D 農村開発事業が選定された村で設定目標を達成される。
- 2) カンボディア政府(M R D)には予算負担を求めていく一方、人件費捻出法を 4 年間で確立する。(下記 1 - 5 - 1 参照)
- 3) 郡、州レベルなど地方自治体の機能強化も図り、 M R D 主体で活動を展開する農村開発事業に向けた基盤づくりを行う。(下記 1 - 5 - 2 参照)
- 4) 4 年後にカンボディア政府(M R D)がプロジェクト活動費等の予算を独自に確保し、活動を継続的に展開していく可能性は低いことから、2004 年 4 月以降についても見返り資金、プロジェクト方式技術協力、チーム派遣、第三国専門家、青年海外協力隊(J O C V)の活用など、二国間の協力を検討していく。(付属資料 16・17 参照)

1 - 5 - 1 C D W 財源捻出法

1) 参加費徴収 \$ 300(1 か村)

Meeting Hut(集会所)建設材料費、 P R M 原資購入費、技術習得訓練費用など \$ 3,000 が村に投入されることを前提に参加費を徴収する。

2) P R M(Partner Revolving Material)利息から 5 % の Contribution

現行の P R M 利息 10% を Farmer's Group に返納させるシステムから、5 % を Farmer's Group に、5 % を M R D へ Contribution させる。

3) M R D 及び関係省からの通常給与の 20 \$ の支給

例) 2000 年度 20 か村で活動を展開し、これまで P R M システムを活用してきた村から 5 % の Contribution が徴収され、 C D W 1 人当たりの給与を月額 \$ 100 とした場合

・参加費徴収 $\$ 300 \times 20 \text{ か村} = \$ 6,000$

- ・ P R M 利息 5 % の Contribution $\$ 1,000 \times 20 \text{ 村} \times 5 \% = \$ 1,000$
 - ・ これまでの村からの P R M 利息 5 % の Contribution $\$ 247,000 \times 5 \% = \$ 12,350$
- 上記の合計は \$ 19,350 となり、給与 \$ 100 から 3) 通常給与 \$ 20 を差し引いた \$ 80 × 12 か月で割ると 20 名の給与の確保が可能となる。

1 - 5 - 2 M R D 及び地方自治体の機能強化

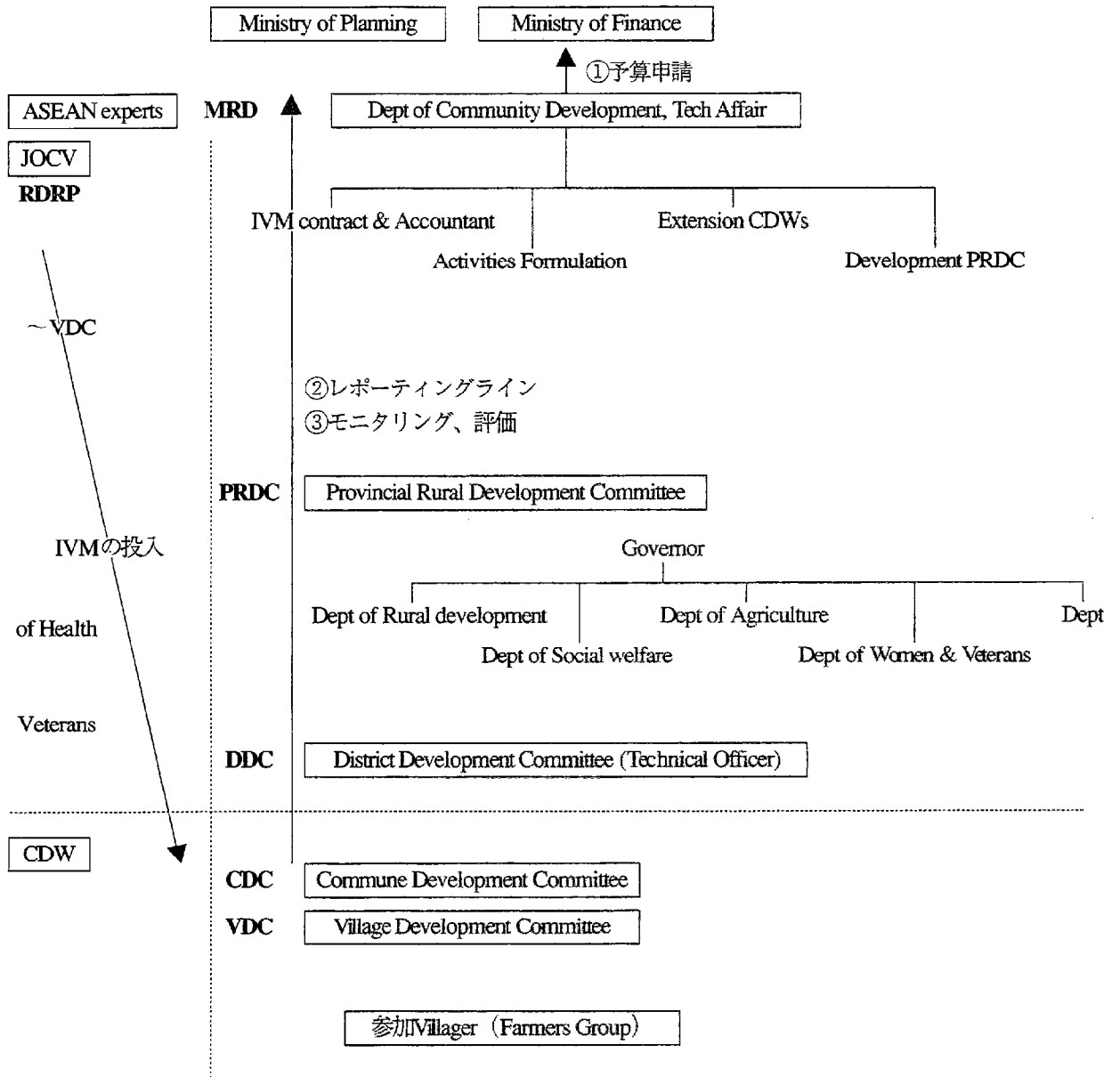
これまで三角協力は村、コミュンレベルで Farmer's Group を形成し、持続可能な総合農村開発手法の普及を行ってきたが、2000 年度からは郡、州レベルの機能強化も図り、M R D 主体で活動を展開する Mini - R D R P スタートに向けた基盤づくりを行う。

下図のように村からワークプランの申請を受け、各委員会で審査し承認された活動に対し M R D より予算が支出される。(Mini - R D R P プロジェクト実施のための組織図：参照)

1 - 5 - 3 2004 年 3 月以降の支援形態(案)

今回設定した 2004 年 3 月までの協力が終了する 4 年後に、カンボディア政府(M R D)がプロジェクト活動費などの予算を独自に確保し、これまでの技術協力の成果を活用しつつ農村開発プロジェクト活動を継続的に展開していくことは、現在の経済状況からも非常に困難を伴うことが予想される。したがっていずれかの形態で協力を継続していく必要性は高いといえよう。今後、M R D のプロジェクトに対する主体的な取り組み姿勢を絶えずモニタリングしていきながら、必要に応じ各年度ごとに柔軟な対応を行うことが必要だと思われる。プロジェクト活動費の確保が困難な場合、最低でも 2004 年には M R D による人件費の負担、もしくは捻出法が確立できることを前提に、見返り資金、チーム派遣、第三国専門家、J O C V などの活用により、2004 年度以降についても M R D による農村開発活動を継続的に支援することもあらかじめ想定すべきと考える。

Mini-RDRPプロジェクト実施のための組織図



2. 各フェーズ協議結果

2 - 1 三角協力プロジェクト形成調査団・フェーズ

2 - 1 - 1 UNDP「三角協力モニタリング・評価」に関するTOR、評価内容についての協議
UNDPカンボディア事務所にて関係機関会議が開催され、UNOPS作成のモニタリング・評価TORドラフトに沿って各項目ごとの確認がなされ、また、本評価の調査必要経費の確認、大枠でのスケジュール確認がなされた。ワークプランなどの詳細についてはコンサルタントとプロジェクト関係者で協議していくこととなり、評価内容についてもUNDP独自の一方的な評価ではなく、日本側の意向も反映することを期待できる結果となった。また、コンサルタントとの第1回会議にてスケジュール、モニタリングチームの選出法、便宜供与などについて協議を行い、ワークプランの提出日程などの合意が得られた。

2 - 1 - 2 今後のプロジェクトの中期的な協力計画策定のための関係者との協議、協力計画素案の作成

農村開発省次官 H.E Mr. Ngy Cyanpal と、今後の三角協力の事業実施に際して、カンボディア政府側負担の可能性に関し、1)人件費の負担、2)プロジェクト施設の運営移管、3)プロジェクト活動の移管、4)プロジェクト運営の移管などについて協議を行い、カンボディア政府としての予算要求、農村開発省からのプロジェクトへの人材派遣などについて前向きな発言がなされ、継続的に検討していくこととなった。

また、プロジェクト関係者、JICAカンボディア事務所などと今後の「三角協力」について協議し、2004年3月を一つの区切りとした計画について、PDM(案)を作成した。今後、この案を基に外務省、JICA、協力隊事務局、JICEなどと協議を行いPDM(最終案)を作成し、2月下旬に予定されている三角協力プロジェクト形成調査団(フェーズ)の際に、農村開発省へ提示するとともに、3月にUNDPへ提出予定の計画書にも反映することとした。

2 - 2 三角協力プロジェクト形成調査団・フェーズ

2 - 2 - 1 UNDP「三角協力モニタリング・評価」及び、フォローアップについてのUNDPとの協議、今後の三角協力の計画(4か年計画)についての意見交換

4か年計画(案)については、昨年外務省技術協力課長がUNDP本部(ニューヨーク)のTCDC部長と会談した際に予算を含む今後の見通しの提示について要請され、本年3月に回答することとなった経緯を説明した。今後、必要箇所の修正を行った後、プロジェクトから

UNDP 現地事務所に提出する予定であり、3月末までにUNDP 本部に提出されるよう要請した。日本側としても、4か年計画以降もこれまでのマルチの協力体制から二国間の協力体制に移行し、継続して協力支援していきたいと考えているが、事業継続のいかんはMRD側の自立運営に向けての努力にかかっている旨を強調した。UNDP「三角協力モニタリング・評価」報告で重要視された、カンボディア側のオーナーシップの強化、評価モニタリングシステムの再構築についても配慮し4か年計画に反映している旨説明し、了解を得た。

また、UNDP「三角協力モニタリング・評価」に関し、我々が今後円滑な事業移管に必要な要件が明らかにされ、また、多くの事例紹介は非常に有益であり、高く評価している旨説明した。フォローアップでは、今後の事業移管に向けてカンボディア側の投入が最重要課題であることが強調されており、2000年度の事業計画のなかで、今回の提言内容、カンボディア側の投入について具体的な検討を行うこととなった。

2 - 2 - 2 農村開発省(MRD)による人件費・センター移管などの検討状況の説明、及び来年度計画・4か年計画概要についての協議

協力期間については、UNDPの同意が必要であるものの、日本側として、この形態で2004年3月までプロジェクトを継続していく考えを伝えるとともに、4か年計画は、MRDへのプロジェクト移管を前提としており、自立発展のため尽力するよう要請した。また、4か年計画をUNDPに提出することとなった経緯を説明し、併せて、MRDとしても今後4年間の協力継続が自立発展に不可欠である旨、UNDPに公式表明するよう求めた。

2000年は、これまでの活動実績を基に、今後のプロジェクトの実施計画を策定する年(リフォーミュレーション・イヤー)と位置づけ、活動内容や範囲を拡大するのではなく、現状の把握と問題点の抽出・整理及びプロジェクト対象農村における活動の実証調査を行い、事業の効率化をめざすことで持続可能な農村開発手法を移転する方針とすることで了解を得た。

人件費・センター移管などカンボディア政府側負担の検討状況については、現在、農村開発国家政策を策定中であり、2000年度予算要求のなかに総合農村開発プロジェクト(Integrated rural development project)なる農村開発事業を予算計上している旨表明された。また、MRD及び地方自治体がプロジェクトの指導の下、主体的にRD RP事業を実施するMini-RD RPについて、2000年度はプロジェクト予算によって実施するものの、2001年度以降、MRD事業として予算要求される旨説明があった。

2 - 2 - 3 ASEAN各国大使館に対するASEAN専門家投入数の減少に係る説明、4か年計画概要の説明

ASEAN 4か国大使館に対し、これまでの協力に対する謝意を表明するとともに、事業移

管計画に伴う専門家派遣数の漸次削減について説明し了解を得るとともに2004年までの継続協力を要請した。

A S E A N各国大使館は、本件協力は極めて裨益効果が高く、協力の継続は不可欠であるが、カンボディア側の自助努力もまた必要であると認めるものであった。特に、新A S E A N加盟国に対する協力は不可欠であり、今後とも日本を含めた各国の協力が必要であるとの意見も聞かれた。

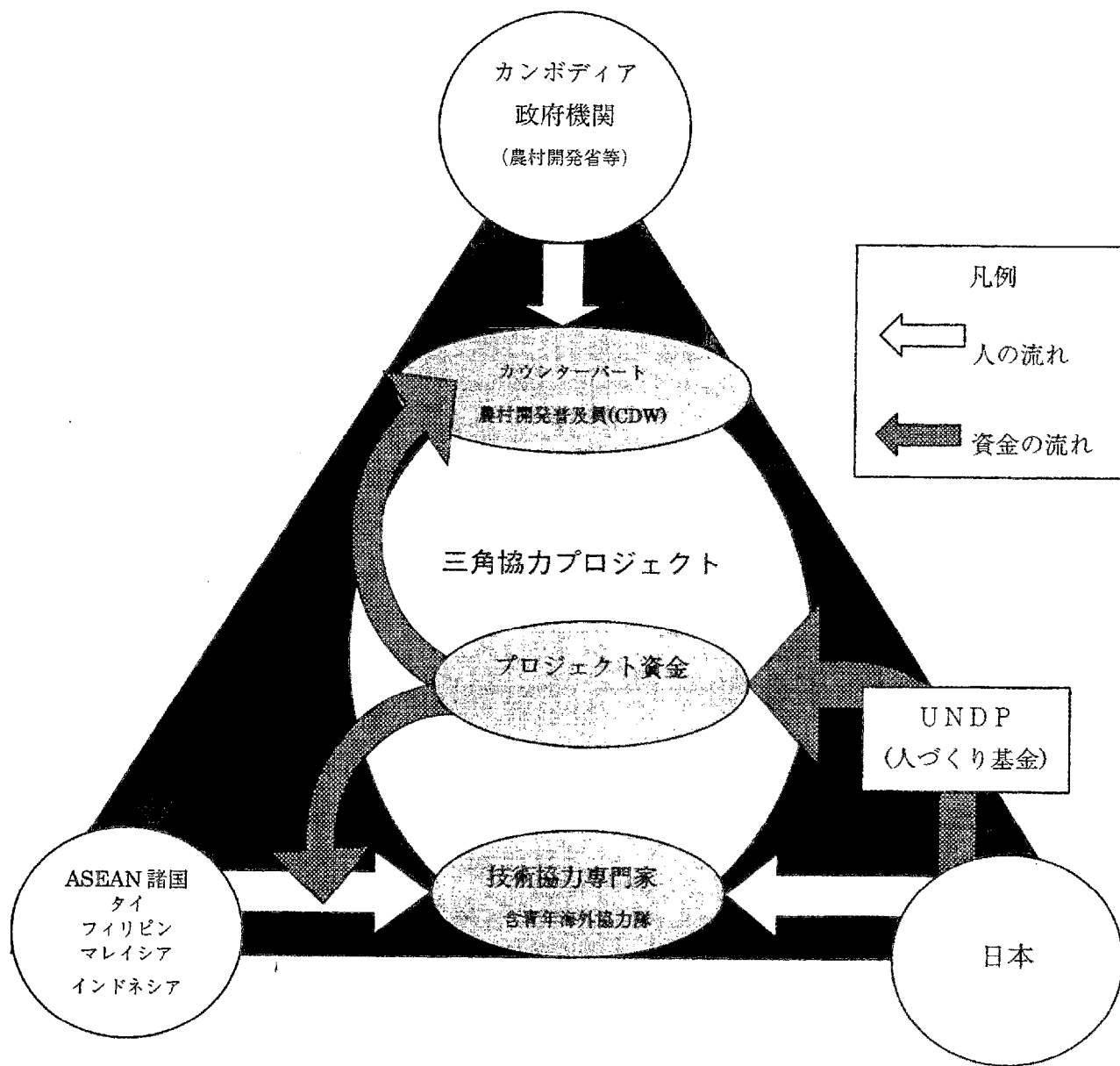
2 - 2 - 4 プロジェクト関係者及びJ I C A事務所とのA S E A N専門家・J O C Vの投入、 第三国専門家活用なども含めた、来年度の計画の策定、4年間計画の大枠について の協議

カンボディア政府の開発計画では、農村開発、教育、保健、農業の各省の機能強化を優先課題としており、重点的に予算が措置されることとなっている。加えて、フンセン首相も農村開発の重要性を強調し、日本政府への本件協力に対する謝辞を表明するとともに継続した協力を求めている。よって三角協力に関しては、U N D Pを通じた協力は2004年までにフェードアウトするものの、J I C Aの二国間による協力は継続する方向で検討する必要がある。つまり、事業としては、フェードアウトではなく予算の代替であり、その多様化を図るものと理解される。しかしながら、カンボディア側の財政状況では、M R DがMini - R D R Pなどの投入を漸次拡大するとしているものの、持続発展可能なシステムを確立して事業を移管するためには2004年4月以降も二国間での協力(各種スキームの活用：見返り資金、プロジェクト式技術協力、第三国専門家、J O C Vなど)による支援が不可欠であることを確認した。

付 属 資 料

1. 図 三角協力プロジェクトの人と資金の流れ
2. プロジェクト関係機関の役割
3. A S E A N 専 門 家 ・ J O C V 隊 員 投 入 実 績
4. 年表
5. 分野別実績総括表
 分野別裨益者数
6. 現在の三角協力活動
7. P R M 説 明
8. C D W 説 明
9. C D W & C / P 名 簿
10. C D W & C / P 評 価 表
11. J I C A プ ロ グ ラ ム 研 修 受 講 者 名 簿
12. 三角協力の間接的效果
13. U N D P 「 三 角 協 力 モ ニ タ リ ン グ 評 価 」 報 告 書 の 提 言 内 容 要 旨
14. 三角協力プロジェクト形成調査団
15. 三角関係協力プロジェクトの自立発展に向けた課題
16. 2004年4月以降のプロジェクト継続(案)
17. 第三国専門家活用(案)
18. U N D P 提 出 4 か 年 計 画 案
19. Transition Plan Stage up to March 2004

1. 図 三角協力プロジェクトの人と資金の流れ



2. プロジェクト関係機関の役割

プロジェクト関係機関の役割

関係機関	役割	備考	
日本	外務省	日本側の協力計画立案 UNDP 注) の人づくり基金にプロジェクト活動資金を拠出	
	国際協力事業団 (JICA)	個別専門家、青年海外協力隊派遣 プロジェクト運営及び技術指導	個別派遣専門家、 青年海外協力隊の派遣費用は JICA 負担
	日本国際協力センター (JICE)	プロジェクト活動資金管理、及びロジスティックのための人員派遣	人員派遣経費はプロジェクト活動資金から支出
UNDP	人造り基金からプロジェクトに活動資金を拠出		
ASEAN 4 か国 ・インドネシア ・マレーシア ・フィリピン ・タイ	技術協力のための専門家派遣	ASEAN 専門家派遣費用はプロジェクト活動資金 (UNDP) から支出	
カンボディア (農村開発省等)	カウンターパート (C/P) 及び農村開発普及員 (CDW) の派遣	C/P 及び CDW の手当はプロジェクト活動資金 (UNDP) から支出	

注) 1993 年度までは UNHCR

カンボディア三角協カプロジェクト ASEAN 専門家・JOCV 隊員投入実績

派遣国	農業分野						生計向上						教育						公衆衛生						計						合計						
	94年	95年	96年	97年	98年	99年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	94～99年度
フィリピン	10	10	10	8	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	8	8	8	54
インドネシア	6	6	6	5	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	3	3	3	10	10	10	8	8	8	10	10	10	8	8	8	54
マレーシア	0	0	0	0	0	0	10	10	10	7	8	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	7	8	7	10	10	10	7	8	7	52
タイ	4	3	3	4	2	2	2	1	2	1	2	2	2	0	2	0	1	1	2	3	3	3	2	2	10	7	10	8	7	7	10	7	10	8	7	7	49
JOCV	3	3	3	0	0	0	3	2	2	2	2	2	2	3	3	0	1	1	2	2	2	1	0	0	10	10	10	3	3	3	10	10	10	3	3	3	39
計	23	22	22	17	15	15	15	13	14	10	12	11	4	3	5	0	2	2	8	9	9	7	5	5	50	47	50	34	34	33	50	47	50	34	34	33	248

4. 年表

年度	年月	主な出来事 / 関連事項	活 動	Japan Fund		
第1フェーズ	1992年度	92'Sep. プロジェクト形成調査 Dec. 農村基盤整備開始	「農村基盤整備事業」 ・農村道路改修 ・橋梁改修 ・農村開発センター5か所の建設 1)コンボンスプーセンター a.管理事務所 b.試験圃場 c.内水面漁業施設 d.研修棟 e.電気及び給配水 f.圃場道路改修 g.乾燥場 2)サムロントン・サブセンター a.小学校 b.公共施設 c.診療所 d.井戸 e.実証及び協同圃場 f.貯水池 g.便所 3)コンピセイ・サブセンター a.小学校 b.公共施設 c.井戸 d.運動場整備 e.便所 4)タケオ・サブセンター a.公共施設 b.診療所 c.井戸 d.貯水池 f.乾燥場 e.実証及び協同圃場 g.便所 5)トラムクナセンター a.管理事務所 b.宿泊施設 c.電気及び給配水 d.乾燥場 e.食堂及び台所 f.多目的室 ・本格活動の計画立案	UNHCR		
	93'Feb. プロジェクト形成調査 Apr. 当初計画の農村開発センター4か所、農村道路改修などの完了 プロジェクト形成調査 May. カンボディア国民選挙 Sep. プロジェクト形成調査 Oct. 三角協力関係6か国によるR/D締結 Nov. カンボディア王国新政権誕生					
	1993年度	準備期間開始 先発 ASEAN 専門家/協力隊着任 (Nov.~Jan.) 94'Feb. トラムクナセンター建築完了 ASEAN 専門家/協力隊着任 (Feb.~Oct.) Mar. 本格活動実施予定延期 第1回JCC委員会開催				
	94'Apr. 本格活動実施開始 Jun. Opening Ceremony 開催 (ラナリット首相、今川大使など各国大使出席) Sep. モニタリング実施 Nov. フンセン首相三角協力現場訪問 95'Feb. ASEAN 専門家/協力隊離任 (Feb.~Mar.) モニタリング実施					
	1995年度	95' Oct. ASEAN 専門家/協力隊着任 (Apr.~Dec.) モニタリング実施 チャム国家主席代表(当時) 現場訪問 96'Mar. ASEAN 専門家/協力隊離任 (Mar.)				
	1996年度	96' May. ASEAN 専門家/協力隊着任 (May.~Aug.) Oct. 藤田 JJICA 総裁三角協力現場訪問 97'Mar. モニタリング実施 プロジェクト評価調査 ASEAN 専門家/協力隊離任 (Mar.~May.)				
	1997年度	97' Jul. 武力衝突事件 協力隊離任 98'Feb. ASEAN 専門家/協力隊着任 (Feb.~Mar.)				
	1998年度	98'May. モニタリング実施 Jul. ASEAN 専門家/協力隊離任 (May.~Jul.) カンボディア総選挙				
	第2フェーズ	98'Aug. 総合農村開発普及開始 Dec. カンボディア王国新政権誕生			「農村開発事業確立」 ・Integrated Village Management の確立 (IVM:農村開発手法) [集会所(Meeting hut)、農民グループ(Farmers group)、回転資機材(Revolving materials:別紙参照)の三要素を持ち、農業を中心とし、教育・生計向上・公衆衛生の4分野とをインテグレートした総合農村開発を村で行う手法] IVM 活動村 73か村 IVM 活動コミュニティ(区) 2か所 CDW 育成 60名 ・職業訓練実施(縫製、バイク修理、陶芸など) 4,324名 ・教育 小学校建設/修復 70校舎 クラスタースクール(コアスクールを中心とし、近隣の6~8校で教材利用等をシェアしている)での指導 ・保健衛生の訓練指導 クリニックの建設 31か所、 井戸掘削 162か所、トイレ 473か所 ・裨益者数内訳(延べ人数) 一般裨益者 445,302 研修受講政府職員、普及員 2,611 合計 447,913	UNDP 三角協力 基金
		99'Feb. ASEAN 専門家/協力隊着任 (Jan.~Mar.)				
1999年度		99'May. 紺野美紗子 UNDP 親善大使 現場視察訪問 Oct. モニタリング実施 Apr. カンボディア ASEAN に加盟 Dec. プロジェクト形成調査団(フェーズI) UNDP 三角協力モニタリング評価(~Feb.) 00'Mar. プロジェクト形成調査団(フェーズII) ASEAN 専門家/協力隊離任 (Feb.~Mar.)				
第3フェーズ		「総合農村開発普及」 ・Integrated Village Management の普及 IVM 活動村 53か村 IVM 活動コミュニティ(区) 11か所 CDW 育成 16名 ・職業訓練実施(縫製、バイク修理、陶芸など) 1,642名 ・教育 小学校建 14校舎 クラスタースクールでの指導 ・保健衛生の訓練指導 井戸掘削 64か所、トイレ 102か所 ・裨益者数内訳(延べ人数) 一般裨益者 78,858 研修受講政府職員、普及員 303 合計 79,161	UNDP 人づくり 基金			

5. ①分野別実績総括表

三角協力の分野別実績総括表

分野別主要活動	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	合計
1. 農業開発							
_ 米の収穫量 (協力農家)							
雨期収穫	1.0トン/ha	1.2トン/ha	1.85トン/ha	2-3.5トン/ha	2-3.5トン/ha	2-4.3トン/ha	
乾期収穫	1.8トン/ha	2.0トン/ha	2.76トン/ha	3トン/ha	2.8トン/ha		
_ 有用樹 (苗木) 配布数	16,056本	30,000本	64,955本	14,190本	4,700本	28,860本	158,761本
2. 生活向上(職業訓練)							
訓練生	1,328名	736名	1,610名	650名	647名	995名	5,966名
3. 教育							
_ 小学校校舎建設・修復	14校	20校	18校	18校	0校	14校	84校
4. 公衆衛生							
_ 診療指導の拠点							
ヘルスセンターの建設	5か所	14か所	12か所	0か所	0か所	0か所	31か所
_ 衛生教育							
トイレの普及	50か所	210か所	107か所	106か所	32か所	70か所	575か所
_ 共同井戸の掘削	5か所	27か所	63か所	47か所	24か所	40か所	206か所
			20修復				20修復
5. IVM活動							
_ 導入郡村数		73か所			53か所		126か所
村							
コミュニティ(区)		2か所			11か所		13か所
_ PRM(農民グループによる 共同管理資機材の初期投入		464グループ			555グループ		1,019 グループ
_ CDW育成		60名			16名		76名

1997年度、1998年度の実績が、1996年度と比較して極端に低くなっているのは、1997年7月の武力衝突及び1998年7月の総選挙前後の政情不安期に、ASEAN 専門家/JOCV の派遣を見合わせたため。
 学校建設・修復の84校のうち、7校はプロジェクト予算、77校は草の根無償で建設・修復された。
 また、1997年度以降、クリニックの建設がなくなったのは、カンボディア保健省の政策でヘルスセンターの建設ができなくなったため。

5. ②分野別裨益者数

分野別裨益者数 (延べ人数)

	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	合計 (延べ人数)
1.農業開発 (研修受講者)							
農民(注)	24,587	22,100	18,834	13,882	11,242	24,007	114,652
研修受講政府職員、普及員	60	72	72	28	84	48	364
	24,647	22,172	18,906	13,910	11,326	24,055	115,016
2.生計向上							
訓練生	1,301	736	1,610	650	747	1,024	6,068
研修受講政府職員、普及員	12	13	66	6	4		101
	1,313	749	1,676	656	751	1,024	6,169
3.教育							
巡回指導対象者	2,335	16,940	18,725	0	5,512	9,559	53,071
研修受講政府職員、普及員	178	253	743	21	0	203	1,398
	2,513	17,193	19,468	21	5,512	9,762	54,469
4.公衆衛生							
受講者	0	0	22,676	2,665	959	0	26,300
来院者	71,877	35,248	21,533	20,335	34,043	4,918	187,954
研修受講政府職員、普及員	98	141	302	123	0	2	666
	71,975	35,389	44,511	23,123	35,002	4,920	214,920
5.IVM活動							
組織化対象村落人口	0	28,498	29,983	24,947	13,337	39,350	136,115
研修受講政府職員、普及員	0	75	110	62	88	50	385
	0	28,573	30,093	25,009	13,425	39,400	136,500
裨益者合計数 (延べ人数)							
一般裨益者	100,100	103,522	113,361	62,479	65,840	78,858	524,160
研修受講政府職員、普及員	348	554	1,293	240	176	303	2,914

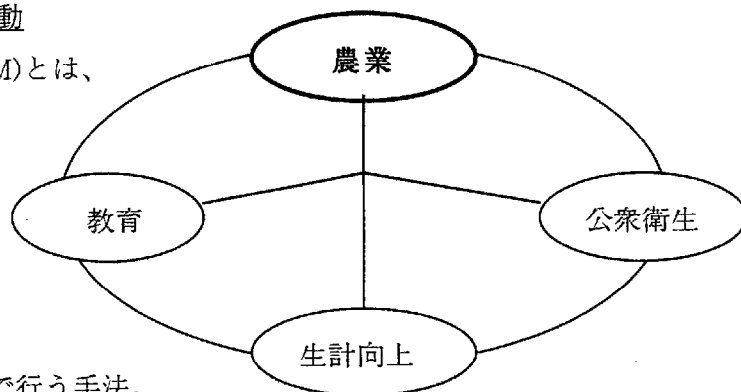
注：ミーティングハットでの回転資機材の講習、フィールドでの肥料、技術指導など

6. 現在の三角協力活動

現在の三角協力活動

1) 総合農村開発手法(IVM)を活用した活動

Integrated Village Management (IVM)とは、
集会所(Meeting hut)
農民グループ(Farmers group)
回転資機材(Revolving materials)
の三要素を持ち、農業を中心とし、
教育・生計向上・公衆衛生の分野と
インテグレートした総合農村開発を村で行う手法。



農業分野では水稻栽培、野菜栽培、果樹栽培、家畜飼育、淡水魚養殖など、教育分野では識字教育、公衆衛生分野ではヘルスボランティアの育成、トイレ設置、生計向上では農閑期の副収入向上のための技術指導（縫製、美容など）を行っており、複数の活動がその村のニーズに合わせインテグレートし展開されている。

2) 教育活動

教育の活動は、主に草の根無償を活用した学校建設のハード面、クラスタースクールのコアにて教師への指導を行っているソフト面に分けられ、本分野での受益者は建築・修復された学校近辺の子どもたちや、クラスタースクールでの先生方であり、IVM手法で農民を対象として行われている識字教育などの活動とは区別される。

3) 職業訓練活動

職業訓練は、縫製、配管、大工、溶接、バイク修理、手工芸、陶磁器などのコースが各センターにて行われており、就職を目的とした活動であり、IVM手法で農民を対象として行われている、農業を本業とし副収入向上を目的としている活動とは区別される。

	IVM手法での活動	教 育	職業訓練
活動場所	対象となる村	建設・修復される対象学校、対象となるクラスタースクールのコアスクール	コンボンスプーセンター、タケオ/コンピセイ・サブセンター
受益者	村人・農民	生徒・教師	村人・農民
活動内容	農業を中心とし、他分野（教育、生計向上、公衆衛生）とインテグレートした活動	学校建築・修復、カリキュラム改善、教材利用など教師への指導	縫製、配管、大工、溶接、バイク修理など就職を目的とした活動

資機材回転貸付制度／Partner Revolving Material (PRM)

IVM(Integrated Village Management)の三要素の一つであり、村の自立性向上を目的に行われているプログラムである。資機材は下記のとおり。

元本（現物）の10%を利子として上乘せし、期限までに返却することとなっており、元本は次回へ流用し、利子はその地域（村）での共通問題解決（道路補修・水路補修・井戸掘削等）のために利用することを条件としている。

利用状況はCDWを通してプロジェクトに報告される。

資機材の種類

- ① 化学肥料 (Fertilizer)
- ② 子豚 (Piglet)
- ③ 鶏 (Chicken)
- ④ 鴨 (Duck)
- ⑤ 各種野菜の種子 (Vegetable Seeds)
- ⑥ 各種果物の苗木 (Fruit Tree Seedlings)
- ⑦ ウォーターポンプ (Water Pump)
- ⑧ 食品加工関連調理器具及び材料 (Food Processing)

利子 (Interest)

10%（ただし、利子はその地域（村）での共通問題解決のために利用）

返済期限・期間 (Due Date)

これは資機材の種類によってまた、その対象地域（村）の事情により変動し、特に規定は設けていないものの、6か月が通例となっている。

手 順

- 1) 農民グループ (Farmers Group) を組織し、代表 (Chief) の選出を行い、村長 (Village Chief)、区長 (Commune Chief)、村開発委員会 (Village Development Committee: VDC) に対し表明する。
- 2) ASEAN 専門家、JOCV、CDW、CP により PRM 制度、Farmers Group の役割、関係書類などの説明が行われる。
- 3) PRM 制度を理解し、参加を希望する村人に Application Form、List of Farmers Group、Agreement など必要事項を記入してもらう。
- 4) 関係者の承認後、専門家、JOCV などを經由しプロジェクトへ提出される。
- 5) プロジェクトマネージャーの承認、登録（台帳記入）後、経費が支出され購入、配布へと進む。
- 6) 登録後の Agreement のコピーが、Farmers Group の Chief の元へと返却され保管される。
- 7) 返済手続きに関しては、専門家などの指導・監督の下で行われ、プロジェクトに経緯・結果報告が行われる。2回目以降も同手順で行われ記録される。

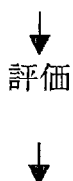
8. CDW説明

CDW(Community Development Worker)

CDW(Community Development Worker)とは、IVM 手法の三要素である集会所(Meeting hut)、農民グループ(Farmers group)、回転資機材(Revolving materials)を用いて、総合農村開発活動を村人に指導、普及していく農村開発普及員である。

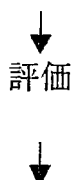
1年目 カウンターパート

ASEAN 専門家、JOCV のカウンターパートとして、それぞれの職種の分野(農業・生計向上・教育・公衆衛生)を中心に農村開発を学び実践していく。



2年目 CDW Candidate

1年目に学び、実践した分野だけでなく、4分野をインテグレートした IVM 手法を実践するための、スキルを取得するため、フォローアップコース受講などを通し、CDW の役割、IVM 活動の指導法などを学んでいく。



CDW となる

- プロジェクトで CDW として活動する。
- カウンターパート以前の仕事に戻る。

9. CDW&C/P 名簿

CDW&C/P 名簿

	No	ID No.	NAME OF CDW & CP	SEX	SPECIALITY	PREVIOUS JOB		
						MRD	Takeo	Komp.S
1	1	CDW101	Sani Kanha Davy	F	Hair Dressing	#		
2		CDW102	Vong Davuth	M	Subsidiary Crops Growing			
3	2	CDW103	Krunh Sopheavy	F	Dress Making	#		
4		CDW104	Neou Borady	F	Education	#		
5		CDW105	Ros Sith	M	Rice Growing			
6		CDW106	Chheang Sokna	F	Vegetable Growing	#		
7		CDW107	Yahya Yakob	M	Brick Laying & Piping			
8		CDW108	Em Sokha	M	Vegetable Growing	#		
9	3	CDW109	Oung Sarin	M	Animal Husbandry	#		
10		CDW110	Kry Vong Pisdh	M	Education	#		
11	4	CDW111	Neang Vanna	M	Vegetable Growing	#		
12	5	CDW112	Chhem Sakcheat	M	Fruit Tree Growing	#		
13	6	CDW113	Nou Vanny	F	Dress Making			
14		CDW114	Ouk Bo	M	Animal Husbandry		#	
15		CDW115	Chea Sarnet	M	Public Health			
16		CDW116	Soeung Nim	M	Carpentry & Joinery	#		
17	7	CDW117	Chan Vanna	F	Post Harvest			
18	8	CDW118	Mov Saroun	M	Ceramics	#		
19		CDW119	Sok Sophon	M	Rice Growing	#		
20	9	CDW120	Ros Sopheap	F	Public Health			
21	10	CDW121	Chea Sophal	M	Rice Growing	#		
22		CDW122	Ouk Sroy	M	Carpentry & Joinery	#		
23	11	CDW123	Seng Sokal	M	Subsidiary Crops Growing	#		
24		CDW124	Long Sarem	M	Fruit Tree Growing	#		
25		CDW125	Yom Sopheap	M	Fruit Tree Growing	#		
26		CDW126	Khev Tong Lee	M	Rice Growing			
27		CDW127	Van Sarith	M	Public Health	#		
28		CDW128	Heng Ngoun Eng	M	Vegetable Growing	#		
29		CDW129	Phon Pech	M	Fish Culture			
30		CDW130	You Non	F	Public Health			
31		CDW131	Ek Im	M	Public Health			
32		CDW132	Ung Bun Lay	M	Public Health			
33		CDW133	Tou Bunna	M	Public Health	#		
34	12	CDW134	Sen Pouhary	M	Brick Laying & Piping			
35		CDW135	Nhean Soleap	M	Domestic Electrical Installation			#
36		CDW136	Touch San	M	Rice Growing			
37		CDW137	Kao En	M	Vegetable Growing			
38	13	CDW138	Bun Sida	M	School Building Construction	#		
39		CDW139	Pohn Sithol	M	Education			
40			Mean Narin	M	Public Health	#		
41			Sen Sies	M	Motorcycle Repair			
42			Hul Meng Ly	M	Fish Culture	#		
43			Loc Vuthy	M	Carpentry & Joinery			
44			Math Sale Zulkifli	M	Welding			
45			Chhy Boppet	F	Public Health			
46			Pan Bun Eng	M	Subsidiary Crops Growing			
47			Oun Saly	M	Domestic Electrical Installation			
48			Soam Ravy	M	Motorcycle Repair			
49			Lyvan Yavy	M	Ceramics			
50			Uong Sameth	M	Education			
51			Soy Panna	M	Vegetable Growing			
52			Ouk Sok	M	Agricultural Machinery			

53	14	CDW201	Hun Hin	F	Vegetable Growing	#		
54	15	CDW202	Kaing Nak	M	Rice Growing			
55	16	CDW203	Heng Vannith	M	Public Health	#		
56	17	CDW204	Chen Sophoathea	F	Food Preservation			
57	18	CDW205	Ork Somony	F	Handicraft			
58	19	CDW206	Nhep Vanna	M	Sericulture			
59	20	CDW207	Sok Seda	F	Public Health	#		
60	21	CDW208	Neuv Chanthan	M	Fruit Tree Growing			
61	22	CDW209	Ung Khun	M	Motorcycle Repairing			
62	23	CDW210	Cheng Vanny	M	Public Health			
63	24	CDW211	Kep Kunthea	F	English Education			
64	25	CDW212	Nget Sopneun	F	Mushroom Culture			
65		CDW213	Tork Nhav	M	Rice Growing			
66		CDW214	Vet Than	M	Public Health			
67	26	CDW215	Treung Sothara	M	Public Health	#		
68	27	CDW216	Chhuon Phirum	M	Rice Growing	#		
69	28	CDW217	Aun Maun	M	Public Health			
70	29	CDW218	Toon Davy	M	Welding			
71		CDW219	At Silunn	F	Animal Husbandry	#		
72		CDW220	Tenp Naun	M	Public Health			
73		CDW221	Svay Dy	M	Agriculture			
74			Prak Chanthan	M	Fish Culture			
75			Kao Vuthi	M	Rice Growing	#		
76			Ly Kunthea	F	Agriculture			
77			Ouk Sok	M	Agricultural Machinery			
78			Vorng Suon	M	Vegetable Growing			
79			Ung Vanny	M	Subsidiary Crops Growing			
80			Uch Puthea	M	Rice Growing			
81			Suy Taing	M	Public Health			
82			Phy Thy	M	Public Health			
83			Hong Pheng	M	Rice Growing			
84			Seng Srey Luch	F	Handicraft			
85			Tok Sakhorn	M	Fish Culture			
86			Suos Sath	M	English Education			
87			Sa Man	M	Domestic Electrical Installation			
88			Him Nasiet	M	Welding			
89	30	CP01	Oun Orn	M	Vegetable Growing			
90	31	CP02	Sam Bonn	M	Animal Husbandry			
91	32	CP03	Haji Ahmad Ayob	M	Rice Growing			
92	33	CP04	Men Oun Sereyuth	M	Subsidiary Crops Growing			
93	34	CP05	Thouk Bun Than	M	Fish Culture			
94	35	CP06	Khin Sok	M	Public Health			
95	36	CP07	Nuth Van	M	Public Health			
96	37	CP08	Ork Hun	M	Public Health			
97	38	CP09	Sorn Sophan	M	Carpentry & Joinery			
98	39	CP10	Lim Sovanney	M	Domestic Electrical Installation			
	*	CDW134	Sen Pouhary	M	Brick Laying & Piping			
99		CP12	Zani Sann	M	Brick Laying			
100	40	CP13	Sonn Mann	M	Vegetable Growing			
101		CP14	Hong Sophoan	M	Fruit Tree Growing			
102	41	CP15	Ouch Borey	M	Asexual Plants Propagation			
103	42	CP16	Rann Pen	F	Subsidiary Crops Growing	#		
104	43	CP17	Non Cham	M	Rice Growing			
105	44	CP18	Sreng Sok Kanha	F	Mushroom Culture			
106		CP19	Ros Kim	F	Food Preservation			
107		CP20	Chen Kry Dara	M	Sericulture			
		Not Coming	Seng Sokhan	M	Public Health	(#)		

108		CP21	Or Sam Ol	M	Public Health		#	
109	45	CP22	Sin Sokha	M	Public Health			
110	46	CP23	Chhem Thoun	M	Rice Growing			
	*	CDW111	Neang Vanna	M	Subsidiary Crops Growing			
111	47	I-01C1 '99	Heng Vannatry	M	Vegetable Growing			
112	48	I-01C2 '99	Hov Chandara	M	Vegetable Growing			
113	49	I-02C1 '99	Khen Buntroeun	M	Animal Husbandry			
114	50	I-02C2 '99	Phan Sokha	M	Animal Husbandry			
115	51	I-03C '99	Khiev Yanna	M	Rice Growing			
116	52	I-04C '99	Tuy Sokheng	F	Subsidiary Crops Growing			
117	53	I-05C1 '99	Yun Sinang	F	Fish Culture			
118	54	I-05C2 '99	Heng Phaleap	M	Fish Culture			
119		I-06C '99	Math Naseat	M	Public Health			
120	55	I-07C '99	Kong Bun Rith	M	Public Health			
121	56	I-08C '99	Chhin Thoeun	M	Public Health			
122	57	M-02C '99	Abdulkadir Bin Ismail	M	Building Technology			
123	58	M-03C '99	Sies Hosan	M	Building Technology			
124	59	M-06C '99	Pol Saroeun	M	Motorcycle Repair			
125	60	M-07C '99	Hor Sun	M	Automotive Technology			
	*	CDW112	Chhem Sakcheat	M	Fruit Tree Growing			
	*	CDW117	Chan Vanna	F	Post Harvest			
	*	CDW120	Ros Sopheap	F	Public Health			
	*	CDW123	Seng Sokal	M	Subsidiary Crops Growing			
126	61	P-01C1 '99	Srey Sokha	M	Vegetable Growing			
127	62	P-01C2 '99	Hang Dara	M	Vegetable Growing			
128	63	P-01C3 '99	Koet Vanthar	M	Vegetable Growing		#	
129	64	P-02C1 '99	Churn Thy	M	Rice Growing			
130	65	P-02C2 '99	Sok Sokhon	M	Rice Growing			
131	66	P-03C1 '99	Sok Serey	M	Subsidiary Crops Growing		#	
132	67	P-03C2 '99	Tep Thoi	M	Subsidiary Crops Growing		#	
133	68	P-03C3 '99	Speueg Vanna	M	Subsidiary Crops Growing			
134		P-04C1 '99	Pech Pao	M	Fruit Tree Growing			
135	69	P-04C2 '99	Pen Vanda	F	Fruit Tree Growing			
136	70	P-05C '99	Seng Ramy	M	Plant Propegation			
137	71	P-06C1 '99	Loeu Danin	F	Food Preservation			
138	72	P-06C2 '99	Ork Somlntha	F	Food Preservation			
139	73	P-07C1 '99	Mao Naruth	M	Sericulture			
140	74	P-07C2 '99	Sok Nann	M	Sericulture			
141	75	P-08C '99	Loeung Sihan	F	Mushroom Culture			
142	76	T-01C '99	Chhim Sarath	M	Rice Growing			
143	77	T-02C '99	Ram Vuthea	M	Subsidiary Crops Growing			
144	78	T-03C '99	Aron Wan	F	Public Health			
145	79	T-05C '99	Chom Mon	M	Handicraft			
146	80	T-06C '99	Thai Sereyath	F	Dress Making			
147		T-07C '99	Ros Rom	M	English Education			
148	81	J-01C1 '99	Touch Sophy	F	Ceramics			
149	82	J-01C2 '99	Phauk Mary	F	Ceramics			
150	83	J-02C1 '99	Nop Rumdeng	F	Dress Making			
151	84	J-02C2 '99	May Savary	F	Dress Making			
152	85	J-03C1 '99	Bun Chhay	M	Primary Education			
153		J-03C2 '99	Mom Kea	M	Primary Education			
154	86	J-03C2 '99	Mak Sam Ann	M	Primary Education			
155	87	PA06C '99	Keo Sereyvuthy	M	Rural Water Supply			
		Grand Total	155		37	32	4	1
		Remaining	87		18	16	2	0

CDW&カウンターパート評価表

NO	カウンターパート氏名	性別	年齢	カウンターパート以前の仕事	活動	専門家評価評				英語力	プロジェクト総合評価	試験結果 点数/順位	
						Technique		Attitude					
						94	95	94	95				
52	Heng Ngoun Eng	M	40	Staff of G.D.C.D MRD	Vegetable Growing		A		A	C	A	57/28	
51	Chheang Sokna	F	28	Staff of MRD	Vegetable Growing		A		A	C	A	71/6	プロジェクト
50	Mov Saroun	M	40	Staff of MRD	Ceramic		D		C	C	C	63/17	プロジェクト
49	Ros Sopheap	F	39	Vice chief of Commune Clinic	Public Health	C	B	B	B	E	C	62/20	プロジェクト
48	Sok Sophon	M	37	Staff of MRD	Rice Growing	B	B	A	C	B	B	63/17	
47	Oung Sarin	M	38	Chief of Machinery Training Office MRD	Animal Husbandry	B	B	B	D	C	B	68/9	プロジェクト
46	Neang Vanna	M	38	Staff of MRD	Vegetable Growing	B	C	C	B	C	C	66/11	プロジェクト
45	Chea Sophal	M	38	Staff of MRD	Rice Growing	A	B	A	A	C	A	62/20	
44	You Non	F	27	Farmer	Public Health	B	B	B	B	D	C	54/30	
43	Van Sarith	M	23	Staff of RPC MRD	Public Health	B	B	B	B	A	B	55/28	
42	Touch San	M	53	Chief of Slah Kou Agricultural Station	Rice Growing	B	C	A	B	E	C	38/36	
41	Krunh Sopheavy	F	37	Staff of MRD	Dress Making	?	A	?	B	C	B	72/3	プロジェクト
40	Ouk Bo	M	28	Staff of Community Development Takeoe MRD	Animal Husbandry	D	C	B	C	D	C	65/14	
39	Kry Vong Pisidh	M	24	Staff of Dept.of Primary Health Care MRD	Support for Education	?	B	?	B	A	B	67/10	
38	Neou Borady	F	22	Staff of Dept.of Community Development MRD	Support for Education	C	C	A	A	C	B	72/3	
37	Bun Sida	M	50	Staff of Dept.of Community Development MRD	Support for Education	?	A	?	B	B	B	学校建設(欠)	プロジェクト
36	Ponh Sidhol	M	35	Driver	Support for Education	?	A	?	A	E	B	学校建設(欠)	
35	Tou Bunna	M	38	Staff of Dept.of Primary Health Care MRD	Public Health	B	B	B	B	D	B	48/33	
34	Chea Sameth	M	24	Staff of MRD	Public Health	C	C	D	B	D	C	64/15	
33	Kao En	M	48	Staff of MRD	Vegetable Growing	B	?	B	?	C	B	28/37	
32	Vong Davuth	M	38	Staff of MRD	Subsidiary Crops	B	C	B	B	B	B	74/2	
31	Chhem Sakcheat	M	39	Staff of MRD	Fruit Growing	B	B	B	B	C	B	66/11	
30	Seng Sokal	M	37	Staff of MRD	Subsidiary Crops	B	B	B	B	A	B	60/23	プロジェクト
29	Long Sarem	M	39	Staff of MRD	Fruit Growing	B	B	C	B	C	B	60/23	
28	Chan Vanna	F	23	Student	Post Harvest	B	C	C	C	D	C	63/17	プロジェクト

11. JICAプログラム研修受講者名簿

JICA プログラム研修受講者名簿 計 33 名

(1) JAPAN 31名

	Name	Title	Organization	Period
01	Try Meng	Director General	Ministry of Rural Development	01/03 - 13/03/95
02	Kong Sarith	Director	Dept. Rural Development, Kg. Spu	01/03 - 13/03/95
03	Thor Sen	Director	Dept. Rural Development, Takeo	01/03 - 13/03/95
04	Bin Sareth	Director	Dept. Agriculture, Takeo	01/03 - 13/03/95
05	Hak Seng Ly	Director	Dept. Education, Takeo	01/03 - 13/03/95
06	Tin Fesol	Asst. Project Manager	RD&RP / MRD	06/03 - 21/03/95
07	Chea Samnan	Director	Primary Health Dept. MRD	26/06 - 24/07/95
08	Ngy Chanpal	Under Secretary of State	Ministry of Rural Development	15/09 - 13/10/95
09	Nong Davy	Bureau Chief	Rural Economy Dept. MRD	15/09 - 23/10/95
10	Ly Savuth	Vice Chief	Planning Bureau. MRD	23/09 - 24/10/95
11	Khim Sum	Bureau Chief	Village Model, CDD, MRD	23/09 - 24/10/95
12	Sovanny	Bureau Chief	Comm. Development. DRD, Takeo	23/09 - 24/10/95
13	Peuo Yada	Director	Rural Economy Dept. MRD	25/09 - 23/10/95
14	Kong Sakhan	Deputy Director	Comm. Development Dept. MRD	25/09 - 23/10/95
15	Bun Chan Vannak	Deputy Director	Dept. Rural Development, Kg. Spu	25/09 - 23/10/95
16	Tep Sophat	Vice Chief	Dept. P. Health Care, DRD, Takeo	25/09 - 23/10/95
17	Sok Shitheng	Vice Chief	Agonomy, Dept. Agriculture, Takeo	25/09 - 23/10/95
18	E Sarun	Deputy Director	Dept. Health, Kg. Spue	25/09 - 23/10/95
19	Kep Kunthea	Teacher	Pedagogy School, Kg. Spue	17/01 - 15/02/96
20	Ang Kimsan	Teacher	Dong Khpoh Second. School, Takeo	17/01 - 15/02/96
21	Lim Chhim	Teacher	Sokha Phally H. School, Kg. Spue	20/06 - 19/07/96
22	Tith Ratha	Teacher	Takeo Secondary School, Takeo	20/06 - 19/07/96
23	Lek Chouen	Teacher	Sokha Phaly S. School, Kg. Spue	19/06 - 18/07/97
24	Eth O	Teacher	Andaung Khpuoh S. School, Takeo	19/06 - 18/07/97
25	El Say	Director	Dept. Rural Development, B.Bang	05/05 - 10/07/98
26	Teng You Ky	Deputy Director	Primary Health Dept. MRD	07/05 - 07/06/98
27	Leap Samnang	Deputy Director	Dept. of Training & Research, MRD	15/09 - 02/12/98
28	Sear Heng	Deputy Director	PDRD, Stung Treng Province	13/09 - 01/12/99
29	Khem Sothea	Project Assistant,	RD&RP	01/11/ - 13/12/98
30	Seng Eam Hor		Dept. of Rural Water Supply, MRD	01/11/ - 13/12/98
31	Loch Riem Deth	Deputy Chief of Small Enterprise Office	Dept. of Rural Economics Development, MRD	23/09 - 19/10/99

(2) THAILAND 1名

	Name	Title	Organization	Period
01	Oung Sarin	CDW / RD&RP	Training and Research Dept. MRD	8/11/97 - 23/1/98

(3) INDIA 1名

	Name	Title	Organization	Period
01	Tin Fesol	Asst. Project Manager	MRD/RD&RP	01/11 - 11/12/99

12. 三角協力の間接的効果

① プロジェクトサイト周辺への影響

社会的効果としてミーティングハットをベースにした活動は、ミーティングハットがある村だけでなく、近隣の村への広がりをもつことから地域的なインパクトもあったと認められる。

さらに IVM 手法の実施にあたっては、プロジェクトから村に実施の検討を申し入れていたが、今では村からプロジェクトに実施の検討を申し入れてくるケースが多くなり、このことはプロジェクトが地域住民の農村開発意識を向上させていることを表している。

② ASEAN 各国の技術協力

ASEAN 各国からカンボディアに対する独自の協力が実施されている。

1) インドネシアは、三角協力の経験をもつ専門家をコンポンチュナン州へ派遣し、独自のプロジェクトを実施している。一時期治安状況の悪化から、プロジェクトが中断されたが、現在、再開している。

2) タイは、農業稲作研究所への協力

3) マレーシアについては、迎賓館造園技術協力及び吸水ポンプ寄贈等の協力

4) フィリピンは、精米設備寄贈

などをそれぞれ行っている。

カンボディアの治安状況や自国の経済状況等の外的な理由から必ずしも計画どおりには進んでいない面もあったようであるが、ASEAN 各国は援助協力に関して今後も機会があれば行いたいとの前向きな姿勢であり、これらの ASEAN 各国の独自の援助活動実施も、プロジェクトでの技術協力のノウハウの移転による間接的効果といえる。

13. UNDP「三角協力モニタリング評価」報告書の提言内容要旨

I. 報告書の TOR 等

- 1) 本件評価報告書は、プロジェクト予算の拠出先がUNDPの三角協力基金から人づくり基金へ移行された1998年8月以降の第三フェーズ1年目を対象としたものである。
- 2) 本件モニタリング評価は、UNDPが備上した外部コンサルタントによって行われた第三者評価であり、UNDP自身のプロジェクトに対する評価ではない。よって、本件評価報告書にある推薦事項を履行するようプロジェクトに求める性格のものではない。
- 3) 評価のための調査は、1999年12月20日から5週間にわたって、カンボディア現地において、以下のとおり行われた。
 - ・MRD、日本大使館、JICA事務所などの関係機関及びプロジェクトのJICA専門家、ASEAN専門家、CDW、C/Pへの聞き取り調査
 - ・プロジェクト対象農村での現地調査
- 4) 評価報告書成果品はUNDP内部手続きの遅れから、まだ正式配布されていないが、コメントを聴取するため関係各機関にはドラフトが配布されている。よって以下の提言内容要旨はドラフトからのものであることに留意されたい。なお、最終版において内容が大きく変更される見込みはない。

II. 提言要旨

全体として、これまでの活動成果を積極的に評価している。提言は、今後のカンボディア側による持続発展的なプロジェクト運営のために必要な事項と位置づけられている。特に2000年は、これまでの成果を踏まえ、他の成功プロジェクトの経験も活かし、今後の持続可能な協力内容・方法を策定すべき時期としている。

- 1) 農村自体のキャパシティービルディングを図る。
 - ・農村リーダー、Village Development Committeeを取り込んだ包括的な訓練計画を策定し、周知させる。
 - ・PRMについても運用規定を明文化する。
 - ・女性の参加を促進する。
- 2) MRD及びプロジェクト対象地域の地方政府のプロジェクト運営能力を高める。
 - ・意思決定過程にカンボディア側管理要員を参加させ、事業移管を進める。
 - ・ASEAN専門家は、カンボディア側管理部門要員へのアドバイザーとして配置する。また、PM、APMにもカウンターパートを配置する。
 - ・地方政府においては、郡及び区職員をモニタリングに参加させ、また、プロジェクト活動にも補完的に関与させる。
- 3) 農村開発手法の確立（モニタリング評価方法の再編及び効果的な技術移転の促進）
 - ・効果効率の把握のため、指標の改編等モニタリング評価方法を再設定する。
 - ・農民自身が行い得る簡便なモニタリング評価方法を導入する。
 - ・関係援助機関は、最低5年間の継続協力をコミットする。
 - ・効果的技術移転のため、ASEAN専門家とは2～3年間の長期契約とする。